

府食第451号  
令和5年7月25日

食品安全委員会委員長 山本 茂貴 殿

研究・調査企画会議事前・中間評価部会  
座長 脇 昌子

令和5年度食品健康影響評価技術研究二次公募課題（案）について

このことについて、令和5年7月5日に開催した令和5年度研究・調査企画会議事前・中間評価部会（第1回）における審議の結果、別添のとおり取りまとめましたので、報告いたします。



(別添)

令和5年度

食品健康影響評価技術研究  
二次公募課題（案）について

令和5年7月  
研究・調査企画会議  
事前・中間評価部会

## 令和5年度食品健康影響評価技術研究の二次公募課題(案)

公募課題	概要
(1) 食品に含まれるトランス脂肪酸の摂取量推計に係る研究	<p>新開発食品評価書「食品に含まれるトランス脂肪酸」(2012年3月食品安全委員会)において、トランス脂肪酸の摂取量について、日本人の大多数がWHOの勧告(目標)基準であるエネルギー比1%未満であり、また、健康への影響を評価できるレベルを下回っていることから、通常の食生活では健康への影響は小さいと考えられると評価されている。その後、食品事業者における食品中のトランス脂肪酸含有量の低減化の取組みも進められていることを踏まえ、日本人の食生活の変化を反映した上で、海外当局の動向や最新の科学的知見を注視しつつ、改めてトランス脂肪酸の摂取量推計を行う必要がある。</p> <p>このため、関係省庁で行った各種調査データを収集するとともに、トランス脂肪酸の摂取量推計に必要な食品の分析を行い、これらに基づきトランス脂肪酸の摂取量を推計する。</p>
(2) ベンチマークドーズ法のリスク評価への活用における課題を明らかにする研究	<p>リスク評価に実装されつつあるベンチマークドーズ法(BMD 法)について、統計学や毒性学等の専門家によって研究班を構成し、実事例の分析やモデル事例の試行を実施する。分析及び試行を通じてBMD 法をリスク評価に活用するにあたっての問題点、課題点等を明らかにする。</p>
(3) デジタルトランスフォーメーション(DX)推進に関する研究	<p>政府においてデジタルトランスフォーメーション(DX)が推進されるなかで、食品安全委員会においてもリスク評価業務の効率化や評価技術の高度化につながるような AI 等デジタル技術の活用を含めたDX について検討するため、以下のいずれかの研究を行う。</p> <p>①リスク評価業務の業務フローを分析し、デジタル技術活用のモデル試行を実施することにより、食品安全委員会におけるDX の基盤となるデータベースの基本設計やAI の活用に関する研究を行う。</p> <p>②評価に必要なデータギャップの補完を目的として、これまでに蓄積された毒性試験データの利活用により毒性の予見性の向上に関する研究を行う。</p>

### 【参考】

食品健康影響評価技術研究及び食品安全確保総合調査の優先実施課題(令和5年度)  
(令和4年8月30日 食品安全委員会決定)(抜粋)

#### **4 その他** (2) その他食品健康影響評価に関する研究・調査

上記の研究課題のほか、食品安全委員会が必要かつ緊急性があると認める課題又はリスク評価業務の支援に資する課題について研究・調査を実施する。